全國保育大會狀況

——昭和十年十一月一・二日於臺北——

本誌三十五卷十二月號に會の要項及大會に於ける研究發表の一部を掲載したのでありましたが、その後大會狀況を詳しくお書き送り下さいましたので竝に發表致します。（編輯者）

大會狀況

領臺四十年に於ける統治の實績を展示すべき施政四十年記念臺灣博覽會の開催を好機とし將來に於ける保育事業の發展を期すべく、臺北市保育會主催の下に全國保育大會を臺北市臺北女子高等學院を大會場とし、菊薫る十一月一日二日の兩日に亙り開催せらる。野口臺北州知事、文教局各視學官、州市教育課長、視學市內各中等小學校長、愛國婦人會正副部長等の來賓を始め、內地側會員久留島武彦氏外十名、島內會員百餘名出席定刻、全國保育大會長平塚茂子氏勅語を捧讀し主催者を代表して挨拶を述べ、次で野口知事、松岡市尹、松木協贊會長（代讀）の祝詞あり、日本幼稚園協會、後藤治子（後藤內相夫人）氏外數氏の祝電披露十年以上勤續者羽田タキ外十八名へ表彰狀、記念品の贈呈あり、之に對し八十餘歲の最高齡者保姆櫻川以智氏の謝辭あり開會式を終り一旦休憩、午前十時再開、臺北市保育會、副會長柏熊福太郎氏を議長に推薦一日二日に亙り議事を續行、熱心討議の上文教局諮問案に對する答申案及建議案を可決決定、其の他講演及研究事項の發表等あり、極めて盛會に終始した。

議事

（一）臺灣總督府文教局諮問案

「本島に於ける幼稚園教育の實情に鑑み改善を要すと認めらるゝ事項如何」

右に對し井上視學官（文教局）は「全國保育大會に對し此の諮問案は適當でないかも知れないが內地の御方に對しては臺灣に於ける保育の實情を御覽下さると云ふ意味に

於て、特に本島に於ける幼稚園教育の如何云ふ點に改良が要るかと云ふことに就いて實際幼稚園教育にたづさはりゐられる皆樣の氣持ちが聞きたいのであるから、あらゆる方面から意見を聞かせて戴きたい」と說明があり、之に對し佐藤德治氏(宜蘭幼稚園長)は

一、公立幼稚園の設立、臺灣の幼稚園は公立が少なく自然保育事業は非常に進步が遲く、之について本島人の幼稚園教育に一層留意し發展を計りたい、その爲には少くとも市に三、街庄に一の公立幼稚園の必要がある。

二、保姆養成機關の設置本島には保姆養成機關の設置が無いのは大きな缺點で之は保姆の向上を計る樣に是非必要と思ふ、優秀なる保姆を全島に配置して本島人の幼兒に日本精神を根本的に吹き込むことが肝要であると述べ早川節氏(臺北幼稚園)は

內臺兒混合保育の苦心本島人園兒と共學制度の關係を悉說し本島幼稚園に於て本島人園兒に對して國語を習熟せしむる傍ら國民精神の涵養を計らねばならない等の點を力說し是等の點より見て公立幼稚園の設置保姆養成機關の創置が必要であると結び委員附託となつた。

(二) 建議案

一 幼稚園令を施行せられたきこと

臺北市保育會提出

熊井才吉氏(臺北幼稚園主事)提案理由を說明本島に於ては、明治三十八年總督府令第十六號を以て、幼稚園に關する規程を發布せられ、其後大正十年五月二十九日、臺灣公立幼稚園規則を施行せられたるも私立幼稚園の設立は、今尙公立學校令の中に、含まれてゐるとして、幼稚園規則の沿革を悉說し、今後島民向學心の發達に伴ひ、漸次入園希望者增加の趨勢に向ひつゝある今日、幼稚園の改善進步の必要を論じ此の際幼稚園令を施行せられて、幼稚園の指導奬勵乃至監督の完璧を期せられたし。と。

動議により議長委員七名を指名して、委員附託となつた。

二 保育者の向上の途を講ぜられたきこと

臺北市保育會提出

佐竹齋吉氏(愛育幼稚園長)提出理由の說明先づ保育者の

高尚なる人格の必要を高唱して保姆養成機關、教養施設の完備乃至檢定試驗制度の設置を力說する處あり、之亦七名の委員附託となつた。

(三) 談話題

一、內地會員より

遙に內地より本大會へ列席せられたる內地會員を代表して、大阪市御津幼稚園長大道てる氏一同拍手の中に立つて常夏の島に初渡臺の感想を述べて曰く、百聞一見に如かずと實に豫想以上の樂土に來りて、見る物聞くもの皆珍らしく、美はしく、驚異と賞讚と滿足のみである。と。御禮として大阪市に於ける幼稚園保育の實情及特殊施設の現狀竝研究機關たるべき保育會の研究活動の內容等に就いて、短時間に而も詳細に雄辯に語られた。一同興味深く且有意義に拜聽した。

講演

一、幼兒教育の效果

臺北帝大助教授 力丸慈圓氏

二、幼兒の言語機能とお話の本質

東京第一第二早蕨幼稚園長 久留島武彥氏

午後四時半閉會す

午後六時半より臺北市日新町蓬萊閣に於て保育會主催にて招待會を開く

はじめに平塚會長のいと和やかな御挨拶あり

門司幼稚園長松村茂氏のユーモアあふるゝ謝辭あり。

時恰も熱田神宮の遷座祭に當り定刻一同起立して東方に向ひて遙拜す。

つゞいて運ばるゝ南國料理に舌鼓うち主客歡談つきず、午後九時半散會す。

第二日

一 文教局諮問案に對し委員審議を重ねたる結果、答申案を作製し委員長竹下等氏、答申、滿場一致可決す。

二 臺北市保育會提出の建議案二つ委員に於て審議の結果を委員長熊井才吉氏より報告、原案通り滿場一致可決せり。

三 談話題

幼稚園に對する所感　私立城南幼稚園長　戸田清市氏

四　研究發表

(一)觀察を主としたる保育案

門司幼稚園長　松村茂氏

此の時、平塚總務長官閣下臨席せられた。臺灣始政四十周年記念臺灣大博覽會開催の趣意を述べられ此の機に當り全國保育大會の開催せられたるは實に御同慶に堪へぬ、善良なる第二國民を保育する重大なる責務を、よく一致協力して努力實行せられよと諄々と訓示せられた。

(二)臺北市保育會研究事項

イ、內臺幼兒保育について　私立樹心幼稚園保姆　川西久子氏

時間の都合により豫定變更して

ロ、地方的保育資料としての童謠について　私立文化幼稚園保姆　山口つる氏

お日樣と椰子　私立文化錦幼稚園

佛桑花　私立臺北幼稚園

祭の行列　私立錦幼稚園

あひる　私立臺北幼稚園

椰子の兵隊さん　私立文化幼稚園

ニ、本島幼兒保育について　私立愛育幼稚園保姆　佐竹花氏

ホ、內臺幼兒の身體發育調査について　私立大正幼稚園保姆　翁長靜枝氏

ヘ、地方的保育資料としての手技について　私立艋舺幼稚園保姆　池部アサ氏

熊井副會長の閉會の辭ありて名殘りをしぐめ三々五々散會せり。

尙午後一時より警察會館に於て市招待會開かれ內地及島內地方會員竝臺北市保育會幹部列席す。

はじめ、松岡市尹の御懇ろなる御挨拶あり門司松村園長禮を述べられ一同打寛いで午餐を頂いた。

本年度保育實習科卒業者

東京女子高等師範學校保育實習科は本年三月左の二十四名の新卒業者を保育界に送り出さうとしてゐます、皆それ〴〵適當な働き場所を得て斯界の爲熱心にその職に從事し度い希望にもえてゐます。御採用を願ひます。

氏名	出身學校	生年月日	氏名	出身學校	生年月日
石井嘉代子	東京府立第三高女	大正六年十月二十七日	嶋澤　良	青山學院高等女學部	大正六年五月四日
石垣　きみ	東京女高師附屬高女	大正六年七月四日	白井　雅子	東京牛込高女	大正八年一月二十五日
小倉　和子	東京雙葉高女	大正六年十二月二十五日	瀨下三智子	東京女高師附屬高女	大正六年七月十六日
勝田四方子	東京府立第五高女	大正六年一月五日	田口　信子	東京府立第一高女	大正六年七月二十三日
桂原　幸子	同　第三	大正六年十月二十七日	田中　實枝	青山學院高等女學部	大正六年五月八日
木藤富士子	同　同	大正六年七月三十日	辻　由	滋賀縣立彥根高女	大正六年六月十七日
北村百合子	同　第六	大正六年十一月五日	富永　文代	東京府立高等家政	大正七年九月十六日
小島　睦美	淀橋精華高女	大正七年一月二日	西山　和子	石川縣立金澤第一高女	大正六年四月二十六日
佐久間フミ	府立第一高女	大正六年十一月十四日	村岡　禎子	東京東洋高女	大正五年五月十二日
佐藤　久子	福岡縣立喜多方高女	大正七年七月十八日	山崎喜代子	東京三輪田高女	大正七年一月九日
坂田美英子	釜山公立高女	大正六年十月十五日	吉澤　光子	長野縣立須坂高女	大正六年十月十四日
酒井　信子	東京東洋高女	大正七年一月十八日			